第５期　第５回　東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会　会議録

１　会 議 名　　第５期　第５回　東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会

２　日　　時　　令和７年１２月２２日（月）午後７時から午後８時４０分まで

３　会　　場　　東久留米市役所７階　７０３会議室

４　出席委員　　石橋委員（副会長）、石塚委員、齊藤委員、佐々木委員、高岡委員、鶴岡委員（会長）
中島委員、檜垣委員、平林委員、藤盛委員、降矢委員、堀委員、森谷委員
山中委員、湯原委員
以上１５名

５　欠席委員　　稲部委員、五明委員、富永委員、茂木委員　　以上４名

６　ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　　田中障害福祉課長、後藤保険年金課長

７　事 務 局　　廣瀬介護福祉課長、原田地域ケア係長、池主査、竹内主任

８　傍 聴 人　　０名

９　次　　第

（１）開会

（２）議題

議題１　今年度の多職種研修会について

議題２　東久留米市在宅療養相談窓口の活動について

議題３　第４回課題検討アンケートについて

議題４　その他

（３）閉会

１０　配布・参考資料一覧

【資料１－１】今年度の多職種研修会について

【資料１－２】東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会主催　多職種研修会アンケート結果

【資料１－３】第４回多職種理解を深める会アンケート結果
認知症疾患医療センター多職種研修会チラシ

【資料２】在宅療養相談窓口・相談業務中間報告書

【資料３】令和７年度東久留米市在宅医療・介護連携推進事業課題検討アンケート結果

【参考１】令和７年度東京都医療従事者に対する認知症のある人の意思決定支援研修

１１　会議録（要点のみ筆記）

（１）開会　（省略）

（２）議題

議題１　今年度の多職種研修会について

【会　長】議題１の今年度の多職種研修会について、事務局から説明願う。

（事務局より【資料１－１】に沿って説明）

【会　長】それでは、事務局より説明があった実施済みの多職種研修会の詳細について、まず、（１）東京都地域連携型認知症疾患医療センター前田病院主催分について、本日、委員が欠席の為、事務局から報告願う。

（事務局より資料【１－２】に沿って報告）

【会　長】続いて実施予定の多職種研修会、東久留米市在宅療養相談窓口主催分について、委員から報告願う。

（委員より資料【１－３】に沿って報告）

【会　長】実施済みの多職種研修会の報告、実施予定の多職種研修会についての説明があったが、これについて意見や感想はあるか。

（特になし）

【会長】委員の皆様におかれては、実施予定の研修会の周知をお願いしたい。

議題２　東久留米市在宅療養相談窓口の活動について

【会　長】続いて、議題２の東久留米市在宅療養相談窓口の活動について、委員から報告願う。

（委員より【資料２】に沿って報告）

【会　長】委員より報告があったが、何か意見等あるか。

【副会長】広範囲で大変な仕事だと感じる。その中でも精神疾患の相談について、どのように対応しているか伺いたい。

【委　員】在宅療養相談窓口だけで解決できる相談ばかりではないので、内容によって保健所や東久留米市障害福祉課、地域生活支援センターにも相談し、繋いでいる。本人が介護保険サービスを受けていて、その方のキーパーソンが精神疾患を患っている場合もあるので、そのようなケースでは地域包括支援センターの方やケアマネジャーが対応に苦慮されていると感じる。一朝一夕に解決できる問題は少なく、ケースごとに対応しているという印象。

【副会長】そのようなケースでは在宅療養相談窓口もカンファレンスに参加しているか。

【委　員】在宅療養相談窓口がカンファレンスに参加することは少なく、カンファレンス実施の提案をしている。

【副会長】精神疾患の相談については医療機関に繋ぐこともあるか。

【委　員】精神疾患の方は、精神科がある医療機関に繋ぐこともあるが、受診に繋がらないケースも多

い為、行政やその他の窓口に相談することの方が多い。

【会　長】ケアマネジャーの立場から委員は意見あるか。

【委　員】どんな内容なら在宅療養相談窓口に相談しても良いのか、と迷うことがある。自治体によって在宅療養相談窓口の名称も違うので、市外のケアマネジャーは特にそう感じていると思う。在宅療養相談窓口がどういった施設かを、４月に周知できると相談しやすくなると感じる。

【委　員】来年度の参考にさせていただく。

【会　長】デイサービスの立場から委員は意見あるか。

【委　員】既にデイサービスを利用している方について、デイサービスから何か困っているといった相談はあるか。

【委　員】そういった相談もある。デイサービスを利用している方で医療機関に繋げたい方がいるといったケースだった。

【会　長】ヘルパーステーションの立場から委員は意見あるか。

【委　員】定期巡回についての相談は少ないと思うが、今後、定期巡回できそうなケース相談があればぜひ紹介していただければと思う。

【委　員】相談内容によっては定期巡回を紹介することがある。なかなか特殊なシステムなので、難しい場合もあると思うが、その辺りについても相談させていただきたい。

議題３　第４回課題検討アンケートについて

【会　長】続いて、議題３の第４回課題検討アンケートについて、事務局より説明願う。

（事務局より【資料３】に沿って説明）

アンケートの実施期間は令和７年１１月から１２月で、対象件数は市内市外含めて、３４８件となっている。内訳は市内が２５４件で、市外が９４件となっている。回答件数としては１７７件で、市内１３０件、市外４７件となった。回答方法は、今回よりＬｏｇｏフォームを導入し、Ｌｏｇｏフォームでの回答が１２９件で７３％、郵送での回答が４７件で２７％、メールでの回答が１件となった。総回答率は５１％となった。（中略）アンケートの量も多いが、各職種の内容や共通アンケートについても、読み取りしていただき、次回の協議会までに検討いただければと思う。また速報値のため、次回整えたものを提示したいと思っているので、ご了承願う。報告は以上となる。

【会　長】速報値なので、膨大な量となっている。アンケートの回答率については前回実施時より上がっているか。

【事務局】今回のアンケートの回答率は５１％となっている。前回のアンケート回答率は４９％となっているので若干上がっている。

【会　長】承知した。このアンケート結果について、各委員より意見を伺いたい。

【委　員】このアンケートは経年で実施していることもあり、アンケート結果の中に必ず今後の在宅・医療・介護連携についてのヒントがある。今回速報値ということなので、これから分析を行い、今後に生かしていきたい。

【委　員】自由記述欄の箇所で多くの回答があるので、じっくり分析していきたい。アンケート結果にも出ているが、連携しにくい施設として「病院」が挙げられているので、具体的にどういうところが連携しにくいか読み取って、解決方法を模索していきたい。

【委　員】精神保健福祉士として、改善できることが多いと感じた。この在宅医療・介護連携推進協議会として、精神保健福祉士を含めた相談員向けの研修等と実施できれば良いと感じた。

【委　員】もう少し回答率を上げたかった。ただ各事業所、大変忙しい中で回答していただいたアンケートなので、しっかり読み込んで、今後どう生かしていくか考えていきたい。

【委　員】地域包括支援センターとの連携について、連携が取りやすいと回答をしてる事業所が多いので良かった。ただ、なかには連携がしにくいサービス事業所として、地域包括支援センターを挙げている事業所もあるので、自由記載欄も含めて、しっかり読み込み、今後より相談しやすい地域包括支援センターになるのか考えていきたい。所内でも回覧し情報共有したい。

【委　員】在宅療養ガイドブックを知らない事業所がまだあるのは残念だと感じた。ただ在宅療養ガイドブックをいつまで紙で印刷していくか、という議論もしていかなければならないとも感じた。「覚え書きノートを活用していますか」という設問に対して、「時間がないからしていない」、「自社の看取りの指針があるから活用していない」といった回答もあり、これは日本の医療・介護が、自分自身の死に方を決められないということなのか、と考えさせられた。また、連携する際に使用する手段や有効だと思う手段で、ＦＡＸが大多数を占めていることに驚愕した。日本の医療・介護は他の産業に比べて生産性が低いという話もある中で、まだまだ改善の余地があると感じた。

【委　員】在宅療養ガイドブックの認知度がもう少し高くあって欲しかった。私はかなり重宝しており、デイサービスに寄られた方へ、医療・介護の説明をする際に役立っている。多少インフォーマルな情報を入れてみても良いと思う。「入退院時の情報交換について」の箇所の自由記述欄の箇所で、ケアマネジャーの対応について否定的な意見があるが、病院側もまだまだ閉鎖的な部分があり、情報がオープンでない場面もあるので、医療・介護の連携という意味で、改めて課題だと感じた。

【委　員】ケアマネジャーの事業所の回答率が一番高くて安心した。前回のアンケートでは答えづらい項目もあり、今回改善された結果だと思う。Ｌｏｇｏフォームでの回答は、大変答えやすくなった。その点も回答率が上がった要因だと思う。

【委　員】「わたしの覚え書きノート」の自由記載欄で、口から食べられたくなった場合の意見があったが、その通りで、経管栄養を選択するか、胃ろうを選択するか等、栄養補給についても「わたしの覚

え書きノート」に記載できる箇所があれば良いと感じた。

【委　員】在宅療養ガイドブックの認知度をもっと上げていきたい。また追加する内容についても今後考えていきたい。インターネット上で気軽に閲覧できる在宅療養ガイドブックにしていく為にも、ＱＲコードやＷｅｂアドレスをより効率的に利用できたらと感じた。

【委　員】薬剤師会の回答率が低く申し訳なく感じた。多職種勉強会に、より参加してもらうために、情報共有についても見直していきたい。１点確認だが、今回のアンケートは会員薬局へ行ったという認識であってるか。

【事務局】薬剤師会に入会している薬局に、郵送にて送付した。

【委　員】承知した。そのことも含め、薬剤師会に持ち帰って今後の方針を立てたい。またＩＣＴの点について、先ほどＦＡＸの話しもあったが、今後ＩＣＴを活用した情報共有の推進に、今一度積極的に取り組んでも良いと感じた。

【委　員】今回、医療・介護の事業所向けのアンケートであったが、市民向けのアンケートを実施しても良いと思う。例えば市民向けの在宅療養シンポジウムを実施する時に、アンケートに回答していただく。市民からみた東久留米市の現状を把握するのも有効だと思う。人口が減少フェーズになっている中で、重要になるのはフレイル予防や認知症予防の周知である。予防の啓発が今後一番大事になる。またＡＣＰについてはアンケート回答の中にもあったが、高齢者の重度認知症の方は、本人の意思を客観的に証明できない。現在の判断基準と未来の判断基準は変わってくる可能性もある。客観的にその判断ができるような社会教育も重要になってくる中で、３月に行われる在宅療養シンポジウムは非常に有効だと感じた。

【副会長】今回のアンケートは非常に重要で、今後どのように活動を進めていくかを考え直さなければならないものである。その中でも、国も推進しているのが医療ＤＸである。情報提供と情報共有の部分では、電子カルテの共有化が進んでいく。国の方針では、２０３０年までに電子カルテの普及率を１００％にするといわれている。本人の同意は必要になるが、医療・介護関係者が必要な情報を、見たい時に見れる時代になる。また診療情報提供書についても電子化される予定。様々な情報がデータベース化される中で、我々が何をしていく必要があるのかを知っておかなければならない。新しいことを全部やる必要は現状ないが、そういう時代が来るということを認識しながら、少しずつ合わせてやることが非常に重要になってくる。また２０４０年に向けて地域医療構想をどう進めていくかと考えていく上で、この５年から１０年は大きく変革していく。その中でも大事になってくるのはコミュニケーションである。情報共有して、それだけを利用するというものではなく、多職種がどのように意思疎通を図っていくか、顔の見える関係はやはり大切になってくると思う。必要な情報が入手しやくなるほど、人との関係も薄くなることも意識しなければならない。医療と介護の連携を、さらに進めるため

には、共通の言語を持って話し合っていく必要がある。

【会　長】多くの意見を頂戴した。在宅療養ガイドブックを電子化するという話しでは、新宿区は紙の媒体を「さがせーる新宿」というサイトにすべて掲載している。なのでスマートフォンでもパソコンでも、紙の媒体と同じ情報を見ることができる。また栃木県下野市では「しもつけケアナビ」というサイトで、医療・介護・障害の情報が見れるようになっている。また掲示版もついており、災害時には、専門職で連携が取れるのではないかということで、訪問看護の方々を中心として３年ほど取り組みを行っている。何か参考になればと思い、情報共有させていただく。今回のアンケート結果については速報値なので、これから分析を行うことになるが、まずは持ち帰りいただき、気になったことがあれば、事務局の方に連絡していただきたい。次回の５月の在宅医療・介護連携協議会の時に何か良いアイディアが出るかと思うので、その際はよろしくお願いしたい。

議題４　その他について

【会　長】議題４のその他について、事務局から説明願う。

【事務局】本日、参考という形で配布した「令和７年度東京都医療従事者に対する認知症のある人の意思決定支援研修」が１月３１日にオンラインで開催される。今年度、在宅医療・介護連携推進協議会主催の多職種研修でも意思決定支援について取扱いましたので、興味ある方はぜひ見ていただきたい。

【会　長】その他に案内や報告はないか。

（特になし）

（３）閉会

【会　長】本日の協議会の報告と議題は全て終了した。次回については令和８年５月の開催を予定している。委員各位におかれては、今後の会議の開催進行に特段の配慮をいただければと思う。これをもって第５期第５回東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会を終了する。